

第33回IMF 世界大会開催 迫る

オーストリア・ウ イーンで5月に 開催

第33回IMF世界大会が本年5月22-25日、オーストリア・ウイーンで開催されますので、今号では、大会の要点を紹介したいと思います。

大会自体は、開会式を含め4日の日程ですが、大会の前段には、18日の決議委員会を皮切りに、アクション・プログラム委員会、規約委員会といった大会各種委員会が開かれ、大会に向けた最終調整が行われます。また、各種懸案についての最終確認・手続きのため、執行委員会、中央委員会も開かれますし、女性活動活性化に向け、世界女性会議も開かれます。女性代議員参加率20%の目標達成の可否も注目点です。

さて、今大会の主要議題は、以下の通りです。

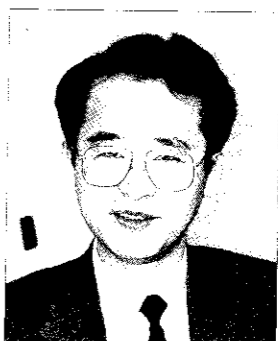
- ▼書記局報告
- ▼規約改定
- ▼役員選挙

は、執行委員数は18名となっていますが、現行定員に加え、世界6地域から新たに各1名の女性執行委員を選出することになります。また、中・東欧の加盟組合員数増大に鑑み、この地域から新たに1名が加わります。したがって執行委員数は、計25名となります。ここでのポイントは、女性活動を活性化させるための女性枠の新設と、地域バランスの調整です。

▼新加盟費モデルの導入・現行の加盟費は、先進工業国の組合が1・10スイス・フランの100%、発展途上国の組合が60%を支払うことが原則です。新モデルは、加盟組合を一人当たりのGDP額により6グループに分け、それぞれのグループごとに支払率を最高100%から最低2%に設定しています。より公正な財政負担を求めたものです。

▼投票権・現行では、多数の組合員を登録しながら小額の加盟費を支払っていても、登録組合員数に応じた投票権が与えられています。改定案は、20万名を超えて登録している、主として発展途上国の組合の投票権を、加盟費支払い実額に応じて設定するというものです。

※1 アクション・プログラムのドラフトは、JIC事務局より入手可。また、IMFのホームページ(www.imf.org)をぜひご覧下さい。世界大会に関する情報が満載です。



●IMF(国際金属労連)シニア・エグゼクティブ・オフィサー(SEO)

鎌田 普 かまだ・ひろし

72年IMF-JCに入局。調査局で国際金属労組の賃金・労働条件比較を担当。75年IMF本部へ派遣。特別企画部長をはじめ、自動車、航空宇宙、電機電子、事務技術職など各種産業担当部長を歴任。95年IMFシニア・エグゼクティブ・オフィサー(SEO)に就任(現)。03年SEOとして地域組織機構、地域事務所、財政、人事、総務を担当。

▼アクション・プログラム

書記局報告は、書記長が行いますが、世界の政治・経済・社会情勢の分析とIMFの見解、ならびにアクション・プログラムをめぐって展開された過去4年間の活動の報告・評価、という内容になります。

規約改定は3 点で根本的 な定を

規約改定ですが、執行委員数、加盟費モデル、投票権の3点で根本的な改定が提案されます。

▼執行委員数の増加・現在の規約で

新 アクション・ プログラムの 採択—大会議 論への積極的 参加を期待

次に新アクション・プログラムについて簡単に触れてみます。全体の構成は、前回の世界大会で採択されたもの、即ち現行のものとはほぼ同一です。これは、運動の継続性を重視した結果と言えます。アクション・プログラム全体としては、それをより適切、的確な表現にするため、言い換えがかなりの部分で行われているということが先ずあげられます。前後の脈絡を良くするために、構成にいくつかの変更が加えられていることもあげられます。

さて、ここで具体的な内容を見てみましょう(※1)。第1章の「経済・社会的背景」では、深刻な失業ならびに過小完全雇用の状況、世界社会フォーラム(WSF)を契機にした労働組合組織外との連携の重要性が新たに書き加えられました。

第2章「IMFの使命に関する声明」では、女性労働者の権利の強化、が新たに加えられました。

第3章では、グローバルな挑戦に対応す



前回の第32回IMF世界大会(シドニー)

るグローバルな機構の構築、多国籍企業対策、国際枠組み協定推進、連帯と組織化、権利の平等、経済のグローバル化に対する社会的要素の組み込み、などの項目に補強がなされました。

アクション・プログラムは、経済・政治・社会的背景を異にする世界各国・地域のIMF加盟組合の代表が論議を重ねて作り上げたものです。従って、ある特定組合の意見だけが反映されているということはありません。一定の組織にとつては、満足の行くものではないかもしれませんが、アクション・プログラムは、加盟組合のコンセンサスの結果であると言えます。換言すれば、これは、加盟組合の活動のための大きな枠組みです。したがって、アクション・プログラムを生かすも殺すも加盟組合次第、ということになります。

JICは、大型代表団を派遣すると聞き及んでいます。参加して学ぶ、という姿勢は常に大切ですが、大会の議論に積極的に参加する、考えていること、意思表示をするということも同様に重要だということをお話し添えておきます。

最後にIMFへの一層のご支援をお願いし、あわせてIMFとその活動が、一人でも多くのJIC組合員に身近なものとなることを祈念します。

(3月2日、ジュネーブ・カールジュにて)



ウィーン市内